

I. -1 校舎

全体計画

西北隅が便利なアプローチであるので、ここに正門を設けた。教室は東西に長い棟を南北に3棟並べ、北棟と東側神社の森の間に体育館を、東西に運動場を配した。プール(予定)テニスコート・バレーコートその他の運動関係のスペースは南から東にかけて配置、受電室・倉庫。自転車置場等は西側生徒通路のほぼ中央に設けた通用門を挟んで南北に設置した。

後に記すように本校はクラスタープランを採用し、2階ですべての動線をつないでいる。体育館へも2階廊下伝いに行けるようになっている。北に表門脇からスロープを上ると玄関ホールに達し、西に事務室・宿直室・校務員室・保健室、東に応接室。会議室・生活指導室・図書館(3階)等が配置され、その上下1・3階が中央廊下へ通ずる。この中央廊下でつないだ2棟目階段室を挟んで東が校長室西が教員室と連りその他は特別教室となっている。

教員室は平面的にも立体的にも校舎の中央に位置するので、各教室へ行くにも管理の点でも至極便利である。南棟は同じく3階建の予定であつたが、生徒数の急増によりやむなく4階建になった。この2階も特別教室であるが、その上下だけでなく4階にも普通教室が配されることになってすこし全体の明快が欠けたのはやむを得ない。以上のとおり共有の室はすべて各棟の2階に位置するので、動線関係はまことに明快であり短かいのが本計画の特徴である。

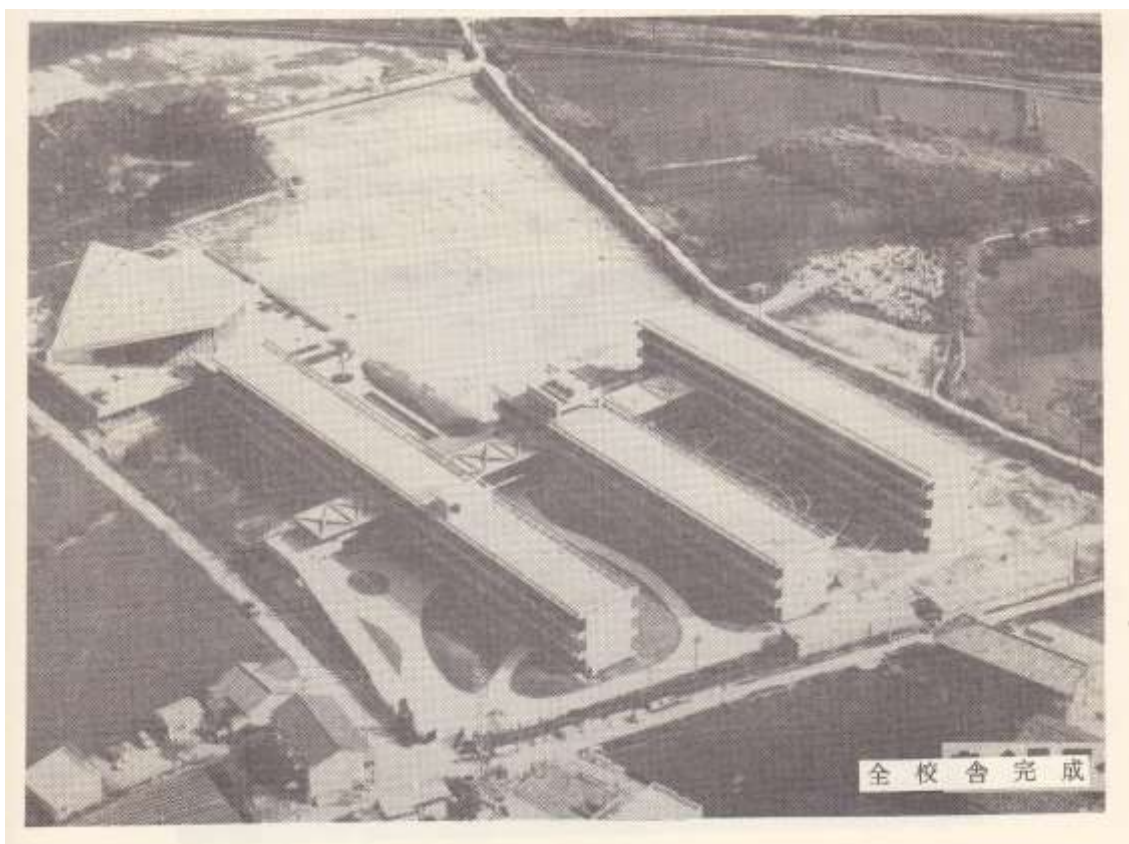
体育館はもうすこし森の方へ近づけ本館から離れたかつたが、運動場拡張の目途が立たないまま建設を進めなければならない状態であつたため、体育館の東にプール・バレーコート等を設置する必要がありやむなく本館にくっつきすぎる形となった。建設中、運動場拡張ができたが体育館はもうすでに半ばでき上っており、まことに惜しい限りであつた。

平面計画

生徒にはやはりホームルームがないと精神的に落ち着かないということで普通教室としてホームルームを各学級に持たせることにした。いままで我が国の学校では片側廊下が使用されてきており、廊下を多勢の生徒が通行するとき、その内側の教室で授業を受けている生徒が落ち着かないという問題と片側廊下の場合廊下側に窓を取ってあっても採光上、廊下側がまことに暗く、教室の採光が均一にいかないという問題があつた。

後者の問題からハイ・サイドライトによることも可能ではあるが、2階建以上になると階高でひじょうな無理をしないかぎり十分な効果を得られない。いろいろ検討の結果、クラスタープランを採用した。8m×8m×3スパンを1単位とするクラスターである。階数は3階建、中央のスパンの1階が出入口(靴箱付)と階段室、その左右がホームルームのロッカー室、3階も同様にホームルームは1階と3階になっており、両側のスパン8mを占める。2階の階段室両側は1・3階ホームルームのロッカー室によって上下に扶まれて1・2・3階共用の男女便所が左右に配置される。この階では、北側は北側廊下が共有の通路として活用され、ホームルームから特別教室へ、特別教室から特別教室へ、教員室から各室への動線はすべてこの廊下で処理される。

廊下としてはこの2階に流れる動線だけであるから、廊下の占める面積はひじょうに小さく、



したがって南北に棟を結ぶ2階の廊下を思い切ってゆったりと取って豊かな空間を造ったにもかかわらず、全体的にはいままでのプランに比べて相当大きな廊下面積の節約になっている。それにも増して大きな収穫は、何ものにもわずらわされることなく南北における全面開放の窓を有とり、広い庭を自分たちだけの庭であるかのように各教室で享受できることである。なお各階に南北に広いバルコニーを取ったのは



日照と風雨に対して最も経済的な方法で教室を守りたいという念願からである。バルコニーはさらに教室と外気との間に緩衝地帯を構成し心を落ち着かせる。このようにテラスを比較的大きく出すことができたのも、クラスタープランによって廊下の節約ができたおかげである。限られた予算の中で如何に快適な空間を造るかということは、建築家としての勤めであり、喜びであり、そして苦勞でもある。

構造計画

普通教室(ホームルーム)部分の構造は単純なラーメン構造である。さきに記したとおり、8m

×8m×3スパンで1単位を構成し、その中央スパンが階段室になっている。この単位が東西に長く並ぶので、東北方向には十分水平力を受ける壁ができるが、東西方向については各教室が水平力を受ける壁ができない。最初施工された第1・2期工事では、北側に入口を取ったので、この階段室の南壁(踊場部分)に水平力を受ける壁を付けた。ところが学校側で実際使ってみられた結果、スペースの節約のため1階階段下を下足室として使用しているのに、下足室とホーム

ルームへ入る動線が交叉して思わしくないことが明らかとなり、第3期工事から入口を南側に取りたいという希望が出た。また階段室・ロッカールームの窓が小さくて採光がわるいという意見もあり、もっともなことなので東西方向については水平力を受けもたせる壁というものをあきらめることにし、さいわい東西には柱が多く並ぶことになるので柱で水平力をすべて受持たせることにした。梁は8m×8mの周囲および南北方向を3つ割りして、東北方向へ2本の梁を架け渡した。8m×8m、2単位に及び大きな部屋にも柱はなく、ひじょうに明快な梁構造が見られる。方向は南・中央・北の3棟を結ぶ渡廊下および2階玄関ポーチについては1本柱の方法を採り、床は南北中央に大梁を通し、東西方向には小梁を細かく掛け渡してリブド・スラブとした。屋根は折板構造で中央柱に雨水を集め、天井はこの折板をそのまま見せている。

